

日 時：令和5年5月17日（水）

時 間：10：30～11：15

場 所：プレイルーム、小学部5年教室

指導者：T1 半澤 龍

1 単元名「がんばろう運動会」

2 本時の目標（対象児童）

- （1）応援合戦のせりふを覚えて、マイクで言うことができる。（知・技）
- （2）塗りたいイラストや塗りたい色を選んで塗り絵をすることができる。（思・判・表等）
- （3）応援合戦の太鼓やダンスに進んで取り組もうとする。（学・人等）

3 単元での児童の実態

対象児童	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
S・Y	・せりふを覚えたり、教員の耳打ちを聞いたりしてマイクで話すことはできるが、その日の気分やタイミングによってはマイクを向けてもせりふを言わないことがある。 ・三三七拍子など自分のタイミングで太鼓をたたけず、教師と一緒にバチを持って太鼓をたたくのを受け入れられないことがある。 ・グラウンドでの活動時は暑さによる疲労も考慮し、無理に活動に誘わないことも考えられる。	☆応援合戦でのせりふを覚えて、自分から言おうとする。 ☆自分から太鼓をたたいたり、白組ダンスをしたりする。 ☆白組の看板に貼る塗り絵を塗ったり、イラストを描いたりして、看板を作る。

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

・ICTを活用し、タブレットやテレビで応援の手本を流し、覚えることができるようにする。 ・繰り返し練習することで、応援合戦でのせりふや白組ダンスの動きを覚えて、自信をもって活動することができるようにする。 ・自分のやるべき役割を果たすことができたときには、称賛することで次回以降への意欲をもつことができるようにする。 ・運動会に向けて自分がやりたい役割を、自分で選択する。 ・応援のせりふは、短い言葉で覚えやすいようにする。 ・仲の良い友達と一緒に応援団の活動に取り組む。

5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10：30	<プレイルームに集合> 1 始まりの挨拶	・当日は白組（5年、4年、2年、AB組）のみの応援練習として、自分たちの練習に集中できるようにする。	
	2 授業の流れを知る	・応援練習をしてから、各教室で看板作りをすることを確認する。	
10：35	3 応援合戦の練習 エール 三三七拍子 ダンス	・本番同様、応援団員は前に出で行う。 ・雰囲気作りのため、応援団員はハチマキを巻いて行う。 ・応援の流れやせりふを覚えることができるように、通して	☆応援のせりふを思い出せるように、1回目はお手本動画を見ながら練習する。 ☆せりふをマイクで言う。 ☆間違わずに言えるように、短

1 0 : 5 5	4 全体での終わりの挨拶 各教室に移動	3 回練習する。その後、ダンスのみ取り上げて練習する。	いせりふに限定する。 ☆ダンスは手本動画を見ながら、自信をもって踊れるようにする。
1 1 : 0 0	5 看板の制作	・運動会看板に貼る塗り絵の制作活動。好きなイラストを選んで、塗ることができるようにする。 ・塗り終わったらハサミで切って看板に貼ることで、自分たちで看板を完成させた感覚を得ることができるようにする。	☆好きなイラストを、好きな色で塗ることができるように準備する。 ☆ハサミで切る箇所に鉛筆で線を引き、どこを切ればよいか分かるようにすることで、一人で切ることができるようにする。
1 1 : 1 5	6 終わりの挨拶		

6 単元を通した児童の様子・変容

- ・経験のないことは敬遠しがちな対象児だが、応援団になることを自分から希望した。応援団の活動は初めてだったが、友達が白組リーダーに立候補したことや、運動会という行事への意欲の高さが気持ちを動かしたと思われる。
- ・応援練習中、マイクを向けた際に気分が乗らずにせりふを言うことができないことがあった。代わりに他の児童に言ってもらったが、その場で悔しくて泣いた。せりふを言うタイミングを逃すと自分のせりふが言えなくなってしまうことが分かり、以降は自分のせりふのタイミングで、マイクを使って言うことができるようになった。
- ・対象児が使うタブレット端末に応援練習のお手本動画を入れておいたことで、自分からお手本動画を再生して繰り返し視聴し、応援の流れを覚えることにつながった。
- ・運動会当日は、応援に来た母を見つけて手を振ったりしていたが、自分がやるべき活動にしっかり取り組むことができた。特に、昨年度は50メートル走の途中で母が気になって走り切るのに時間がかかっていたが、今回はスタートからゴールまで全力疾走で完走することができた。
- ・運動会当日の応援合戦では、ほとんど練習通りにせりふを言ったり、ダンスを踊ったりすることができた。一つ、「おわります」という場面で「はじめます」と言ってしまったが、教師の言葉掛けを受けて「おわります」と言い直すことができた。
- ・当日は白組が応援賞をもらうことができたため、応援団の代表として前に出てトロフィーをもらった。練習通りにもらうことができた。当日は、もらったトロフィーを嬉しそうに母に見せに走っていった。
- ・小学部全体での事後学習で、感想発表の時間があった。教師に誘われて前に出てマイクを向けられると、「応援賞が取れてうれしかった。」と自分で感想を考えて発表することができた。

小学部 5 年グループまとめ	対象児童：S・Y
研究メンバー	半澤 龍 、 義高 美千代

1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫

- ・ICTを活用して、興味のもてるキャラクターやイラストを提示することで、課題に取り組む意欲が高まった。
- ・繰り返しの活動によって、活動内容に見通しがもてるようになることで、安心して自分から取り組む姿につながった。
- ・良い場面が見られたときに称賛をしてきたことで、進んで学習に取り組むことができた。
- ・自己選択の場면을意図的に設定することで、主体的に授業に参加することにつながった。
- ・活動によって席の配置を変えることで、活動にメリハリをつけることができた。
- ・覚えやすい短い言葉、分かりやすい課題を提示することで、やることははっきり分かるようにした。
- ・仲の良い友だちと一緒に活動を組むことで、友達の様子を手本にして取り組む姿が見られた。



2 対象児童の学びがどのように変わったか？

良かった点 ・自分から行う活動が増えた。自分から応援団を希望したり、テレビで見つけた形を指でなぞったり、振り返りを書いたりすることができた。 ・動画に興味をもち、繰り返し視聴することで応援や学習の流れを覚え、自信をもって取り組むことができた。 ・活動の順番を選ぶときに、自分から決めることは殆どなく残った順番で活動したが、自分の順番を受け入れて、泣いたり固まったりすることなく取り組むようになってきた。	課題点 ・教材が近くになると触りたくなったり、いたずらしたくなったりする。 ・ふりかえりシートで気持ちのイラストを選ぶ場面で、本当にその気持ちなのかかわからない。
--	---



3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点

- ・ICTを活用しながら、興味関心のもてる教材を提示する。
- ・繰り返しの学習によって、安心して活動に取り組めるようにする。
- ・好きな活動を通して、一番最初に活動する経験を積んでいく。
- ・自己選択の機会を増やして、主体的に活動できるようにする。
- ・活動によって席の配置を変えることで、今やるべきことに集中したり、活動にメリハリをつけたりする。

小学部 4, 5, 6年 生活単元学習 略案

日 時：令和5年11月22日（水）
 時 間：10：25～11：15
 場 所：小学部学習室、保健室、廊下
 指導者：T1 鈴木詩織

1 単元名「お仕事体験をしよう」

2 本時の目標（対象児童）

- （1）自分の仕事内容が分かり、教師や友達と一緒に仕事をするすることができる。仕事の約束（「挨拶」「返事」「報告」「時間を守る」）を意識して仕事をするすることができる。（知・技）
- （2）仕事に必要な挨拶をしたり、自分の気持ちを伝えたりしながら仕事をするすることができる。（思・判・表等）
- （3）仕事や手伝いへの興味を広げ、生活の中で自分から仕事や手伝いをしたり、日常生活の中でも挨拶や返事をしたりしようとする。（学・人等）

3 単元での児童の実態

対象児童	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
S・S	・昨年度も仕事体験の学習をしている。昨年度は保健室チームで、気温・水質点検を行った。数字や機器に興味がある。 ・今年度一学期と夏休みに学校と家庭の仕事調べと家事の手伝いをを行った。学校内の仕事に興味をもつようになった。 ・教師からの指示を素直に受け入れられないことがある。自分で決めたことや、初めに約束をしたことは守り、指示を受け入れられることが多い。	☆事前学習を受けて、自分からやりたい仕事を選ぶ。 ☆自分のやるべき仕事分かり、自分から仕事をするすることができる。 ☆教師の促しを受けて、挨拶や返事をすることができる。 ☆教師の促しを受け入れて、時間に合わせて学習室に集合することができる。

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

・事前学習を行った後、どの仕事を体験したいかアンケートをとる。自己選択した仕事をする事で、主体的に仕事体験をしようとする姿が期待できる。 ・自分から仕事体験をすることができるように、興味のある、数字に関する仕事や、機器を使用する仕事を活動内容に含んだり、言葉掛けを工夫したりする。 ・自分で仕事をするできるように、やり方を視覚支援で提示する。 ・最高学年であることを意識することができるように、4, 5年生と混合でグループを編成する。
--

5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10：25	1 仕事の準備をする。	・時間を意識して活動できるように、各学級で35分開始であることを伝え、5分前に学習室に集合するように促す。（仕事の開始時刻を掲示板に掲示しておく。） ・お仕事体験中であることを意識することができるように、各学級で研修バッチを付けてくる。 ・学習室前に出勤カードを提示して置く。（準備ができて、学習室に来たらカードを「お仕事中」にする。）	☆時間を意識して仕事の準備をすることができるように言葉掛けする。
10：30	2 学習室に集合する。		☆時間を守って集合することができるように、自分でカードを動かして「仕事中」にする活動を行う。

10:35	3 出欠確認をする。	・STは児童が返事をするように、実態に応じて促す。	☆友達に興味をもち、一緒に活動できるように、出欠確認をする。 ☆約束を意識することができるよう確認の時間を設ける。掲示板にも掲示しておく。
10:45	4 始まりの挨拶をする。 5 仕事内容、グループを確認する。 6 仕事の約束を確認する。	・「みんなと一緒に」「挨拶」「返事」「報告」「時間を守る」を仕事の約束として提示する。	
	7 グループに分かれてお仕事体験をする。	・全員でまとまって、保健室に移動する。 ・保健室の先生方に挨拶し、今日の仕事を確認する。 ・シャボネットや水質点検に使用する器具などを台車に乗せて、みんなで移動する。 ・どこで点検するか分かるように、校舎配置図で確認する。 ・やり方が分かるように視覚支援を提示する。	☆自分から挨拶をすることができるよう、挨拶の言葉を提示し、本人が言うまで待つようにする。
11:10	7 振り返りをする。	・仕事が終わったら、依頼を受けた先生のところへ持っていき、報告する。 ・挨拶をして、学習室に移動する。 ・グループ毎に学習室に戻り、今日の仕事を振り返る。他のグループの仕事の様子も見るように、Google フォトを使って写真を見合う。 ・翌日の勤労感謝の日にも触れながら、仕事についての感想を聞く。	☆自分の仕事が分かるように、役割分担して仕事を行う。得意なことや興味のあることを仕事に生かせるように、記入係と水質点検係を担当する。 ☆自分から挨拶をすることができるよう、挨拶の言葉を提示し、本人が言うまで待つようにする。 ☆次の仕事に繋がるように仕事をしている写真や、挨拶をしている動画等を見合う。
11:15	8 終わりの挨拶をする。	・学習室を退出する際、出勤カードを「お仕事おわり」にする。	☆感想を伝えることができるようにイラストカードを使用する。

6 単元を通した児童の様子・変容

- ・校内で働く職員に関心をもち、自分の学習や行動と関連させて「プールのタオルは、後藤さん（が洗濯してくれている）だね。」「重要なプリントは、後藤さん（が印刷してくれている）だね。」などと発言するようになった。
- ・役割分担して仕事に取り組んだことで、自分の仕事という意識をもち、進んで水質検査と気温・湿度の記入をすることができた。
- ・4年生の友達と役割分担することで、友達がビーカーに水を入れ終えるまで待つなど、友達を気にする様子が見られるようになった。

小学部6年グループまとめ	対象児童：S・S
研究メンバー	高橋侑真、鈴木詩織

1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫 ・役割や活動内容を決める際に、自己選択する場面を設定した。 ・児童のイメージしていることややってみたいことを理解し、学習に取り入れるようにした。 ・数字やタブレット端末を使った学習、機器を使った学習など、児童の得意なことを学習に取り入れた。 ・自分の気持ちを伝えることができるように、教師と話したり関わったりする時間を作った。 ・児童の好きな言葉や楽しいと思う言葉を使って誘い掛けるようにした。 ・約束を伝えてから学習するようにした。



2 対象児童の学びがどのように変わったか？	<table> <tr> <td data-bbox="87 831 798 1496"> 良かった点 ・自分で決めた活動をすることで、自分から行動することや、教師の誘い掛けにも「そうだね。」と言って応じて活動できることが増えた。 ・昨年度、自分の思いを伝えることができず、学習室や図書室に一人で行き、鍵を閉めてしまうということがあったが、自分の思いを伝えたり、教師との会話を楽しんだりする様子が増えた。 ・本人の得意なことを生かした学習を準備することで、学習に集中して向き合える時間が増えた。 ・始めに教師から提示された約束を守ることができるようになった。勝敗へのこだわりが強く、負けた際に友達を叩いたりしてしまうことがあったが、最初に約束を確認したことで、我慢できるようになった。 </td><td data-bbox="798 831 1495 1496"> 課題点 ・人を見て対応を変える。相手を見て、叩くなどの行動も見られる。 ・指摘されたことを素直に受け入れることは難しい。受け入れられないときに、教師や友達に向かって咳をすることがまだある。 </td></tr> </table>	良かった点 ・自分で決めた活動をすることで、自分から行動することや、教師の誘い掛けにも「そうだね。」と言って応じて活動できることが増えた。 ・昨年度、自分の思いを伝えることができず、学習室や図書室に一人で行き、鍵を閉めてしまうということがあったが、自分の思いを伝えたり、教師との会話を楽しんだりする様子が増えた。 ・本人の得意なことを生かした学習を準備することで、学習に集中して向き合える時間が増えた。 ・始めに教師から提示された約束を守ることができるようになった。勝敗へのこだわりが強く、負けた際に友達を叩いたりしてしまうことがあったが、最初に約束を確認したことで、我慢できるようになった。	課題点 ・人を見て対応を変える。相手を見て、叩くなどの行動も見られる。 ・指摘されたことを素直に受け入れることは難しい。受け入れられないときに、教師や友達に向かって咳をすることがまだある。
良かった点 ・自分で決めた活動をすることで、自分から行動することや、教師の誘い掛けにも「そうだね。」と言って応じて活動できることが増えた。 ・昨年度、自分の思いを伝えることができず、学習室や図書室に一人で行き、鍵を閉めてしまうということがあったが、自分の思いを伝えたり、教師との会話を楽しんだりする様子が増えた。 ・本人の得意なことを生かした学習を準備することで、学習に集中して向き合える時間が増えた。 ・始めに教師から提示された約束を守ることができるようになった。勝敗へのこだわりが強く、負けた際に友達を叩いたりしてしまうことがあったが、最初に約束を確認したことで、我慢できるようになった。	課題点 ・人を見て対応を変える。相手を見て、叩くなどの行動も見られる。 ・指摘されたことを素直に受け入れることは難しい。受け入れられないときに、教師や友達に向かって咳をすることがまだある。		



3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点 ・本人の意思を大事にし、自己選択・自己決定する機会を大切にする。児童から出た意見を活動に取り入れていく。 ・誰とでも同じように学習できるように、困った時や自分の気持ちを上手く伝えられないときの対応を身に付けられるように支援していく。 ・一対一で関わる時間を作り、信頼関係を形成する。

小学部 AB組 日常生活の指導 略案

日 時：令和5年7月19日（水）

時 間：9：15～ 9：35

場 所：小学部B組教室

指導者：安西 直美

1 単元名「朝の会をしよう」

2 本時の目標（対象児童）

- （1）発声や挙手で返事を行うことができる。（知・技）
- （2）日にちカードの上下を考えながら貼ることができる。（思・判・表等）
- （3）前にいる教師や友達の様子に注目しながら、活動に取り組むことができる。（学・人等）

3 単元での児童の実態

対象児童	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
O. R	・意欲的なときは、挨拶に立候補したり、一番に名前を呼んでほしくて発声したりする。 ・日にちを貼る役割に教師と一緒に取り組む。カードの上下が逆になることがある。 ・友達が活動している様子を見て、笑顔になることがある。 ・暑さによる疲労で、気持ちが乗らず、ボーっとしているときがある。	☆教師の発問や、友達の様子に期待して笑顔になっている。 ☆教師の目を見て発声、挙手している。 ☆カードの向きに注目しながら貼っている。

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

・毎日繰り返し、学習の流れを一定にすることで、次の活動の見通しをもちやすくする。 ・友達の様子に興味があるので、友達がよく見える配置を工夫する。 ・全員が好きな歌を取り入れながら呼名することで、興味をもって活動に参加できるようにする。 ・朝の会の中で児童に役割をもたせ、達成感がもてるようにする。 ・できた姿をMTが紹介し、全員で拍手などして称賛する場を設定する。 ・全員で取り組みやすいような手話や身振りを取り入れ、予定や献立を発表し、言語理解につなげられるようにする。 ・「せーの」など、みんなで一緒に取り組みやすい掛け声を取り入れる。 ・元気でさわやかに一日をスタートできるように、明るい雰囲気を作る。

5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
9：15			☆学習の始まりを意識できるよう、タンバリンをたたきながら予告する。
9：17	1 始まり・朝の挨拶	・全員がMTに注目してから始める。 ・挙手で挨拶してくれる人を募る。	
9：18	2 呼名 「なまえをよぶよ」	・楽しい雰囲気を心がける。	☆気持ちを高めることができるよう、児童の近くでキーボードを弾く。 ☆注目や返事がしやすい、児童と目が合い、タッチしやすい場所に立つ。

9 : 2 5	3 日にちと曜日	・係は決まっているが、やってくれる人を挙手で募る。 ・気持ちが乗らないときには、教師から指名してお願いをする。	☆日にちカードを貼る意欲を認めるため、「よろしくね。」貼れたら「やったね。」うまくいかないときは「もう一回。」などと、前向きな言葉を掛ける。 ☆できたことが分かるよう、全員の前で紹介し、拍手をする。
9 : 3 0	4 天気	・窓を開けて空に注目させ、答えられる児童に天気を聞く。	☆天気、予定、献立に期待がもてるよう「せーの」の合図をする。
	5 今日の予定	・言葉と手話・身振りを使いながら予定を発表する。	
	6 こんだて	・みんなでできる身振りを取り入れながら、献立を紹介する。	
9 : 3 5	7 終わりの挨拶		

6 単元を通した児童の様子・変容

- ・毎日継続して取り組んできたことで、朝の会の20分間程度はMTや周りの友達に注目し、落ち着いて活動することができるようになった。
- ・日付カードを貼る活動では、始め特定の教師と一緒にやりたがって騒ぐことがあったが、MTとともに貼ることを理解し、特定の場所に上下を考えて貼ることができるようになった。自分で考え、判断する姿が見られたことから、今後さらに机上での学習へとつなげていけるのではないかと考えている。
- ・好きな歌を歌いながら呼名したことで、返事が定着してきた。始めや終わりの挨拶も積極的に取り組んでいけるよう、気持ちを育てていきたい。
- ・バギーに座っての朝の会は落ち着いて取り組めるが、椅子に座っての朝の会だと気がそれて集中できなくなるときがあった。

日 時：令和5年6月1日（木）
 時 間：13：30～14：00
 場 所：小学部A組教室
 指導者：土屋洋貴

1 単元名「電車にのってみよう！」

2 本時の目標（対象児童）

- （1）切符の買い方を知り、立位で自作券売機を押すことができる。（知・技）
 - （2）校外学習の行先やメニューを選び、教師や友達に伝えることができる。（思・判・表）
 - （3）教師の指先に注目したり、進んで自作券売機を押そうとしたりしようとする。（学・人等）
- ※（思・判・表）は別時間に評価

3 単元での児童の実態

対象児童	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
O・R	・電車に乗った経験は少ない。（幼少期） ・気持ちが乗らないと手当たり次第に物を引っ張り投げるが、落ち着いているときは教師の話聞いて一緒に操作できることもある。	・教師の発問に教師の目を見て発声して応える。 ・自分の手先に注目して取り組んでいる。 ・車いすの乗降に落ち着いて取り組んでいる。

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

- ・生活経験が少なく、単元構成では実際に近づけた体験的な学習を計画していく。集中できる時間が短いため、20分くらいの活動を複数日繰り返すに行っていく。
- ・教材では、自作券売機を活用し、実際のタッチ式の画面の触れ方や券売機の高さ、当日の車いすの乗り降りを意識できるように準備する。タッチ式画面はタブレットを活用する。
- ・活動の見通しと雰囲気作りのために校外学習先のスライド、動画を準備する。その際、動画のBGMとして本人の好きな水戸黄門や相撲を入れ、映像に興味をもって見るようにする。
- ・友達の取り組みに興味あるため、友達を切符の買い方やメニューの選び方、発表の仕方などのモデルにし、紹介する。その後、教師と一緒に取り組むようにする。
- ・称賛の仕方として、達成感を感じて興味関心やチャレンジしてみようとする主体的につながるように成功したときはMTが称賛、他の担任に成功を紹介、他の担任も称賛というような流れで行っていく。

5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
13：30	1 始まりのあいさつ	・教師にタッチや発声で応えてあいさつできるように児童の目線の動きに合わせてあいさつする。	☆楽しい雰囲気で学習に取り組めるように本人の好きな「なまえをよぶよ」をギターで歌い、名前を呼びながら学習を始めるようにする。
13：35	2 校外学習スライド 7分30秒	・行先の動画に注目できるように映像に合わせて水戸黄門の歌を歌ったり行先の補足をしたりする。一緒にBGMの水戸黄門を歌いながら動画を見るようにする。	☆児童のペースに合わせて選択できるようにメニュー選択の場面では映像を止めながら問いかける。
13：45	3 切符購入練習	・落ち着いて切符を購入できるように約束を確認してから車いすから立ち、落ち着かない	☆切符を買うことに興味を持てるように買えた際には称賛

14:00	4 終わりのあいさつ	ときは再度車いすに座るようにする。その後、再度取り組む。 ・切符の買い方が分かるように教師がやって見せたり、押す箇所を指さしたりする。 ・頑張ったことを振り返ることができるようにカードを使って頑張ったことを選択するようにする。	し、その後に他の教師や友達に紹介する。 ☆校外学習への期待感を持つことができるように「電車 公園がんばるぞ エイエイオー！」の声をかける。
-------	------------	---	---

6 単元を通した児童の様子・変容

- ・自作の券売機を活用して、児童が硬貨を穴の中に入れることに大変興味があることを把握することができた。時々笑顔もありながら硬貨の向きを工夫して入れたり、硬貨を取ってほしいと教師にお願いしたりする姿も見られた。日頃、車いすから手の届くものに手をのぼし、ばらまく様子があるが、今年度初めて集中して取り組んでいる様子を見ることができた。
- ・自分からやりたいことがあると、車いす・バギーでの学習だけでなく、独歩でお金置き場と自作券売機を往復して5分ほど硬貨を投入する取り組む様子が見られた。
- ・その反面、独歩の状態では好きな活動を切り上げることが難しく、車いすに乗ることを拒んだり、教師の目を盗んで走り出したりする様子も見られ、課題が浮き彫りになった。

日 時：令和5年11月17日（金）

時 間：11：20～12：10

場 所：小学部重複AB組教室

指導者：福田 賢

1 単元名 「つくってみよう」

2 単元について

（1）児童について

対象児は、ドラベ症候群（乳児重症ミオクロニーてんかん）という障害があり、日常生活では車椅子で過ごしている。歩行に不安定さがあるものの、車椅子から降りてウォーキングをしたり友達と一緒に遊んだりすることが好きである。コミュニケーション面では、発声や簡単な身振りで意思表示をすることが多い。発問の際、写真カードやイラストカードなど視覚的教材を2～3項目提示すると、自分の意思で選択することができる。

ドラベ症候群の行動特性として、多動、衝動性、集中力不足などの神経発達症の症状がある。見通しが持てないと、1つのことに集中できないまま好きなことに行ってしまうたり、教室から抜け出したりするなど突発的な行動をとることがある。また、手指の動きがあまり器用でないことが多く、制作活動や作業的な活動が苦手である。そのため、車椅子にテーブルを付けたり、目の前に机を置いたりすると、手指を使った活動だと認識して避けることが多い。

（2）単元設定の理由

対象児は、硬貨を貯金箱に入れたり、ペンのキャップを抜いてホワイトボードに殴り書きしたりするなど、自分の好きな活動は頑張って手指の動きに取り組むことができる。しかし、制作活動や作業的な活動では、ハサミやのりなど慣れない文房具をうまく使えず、途中で投げ出してやめてしまうことが多い。本単元では、実態に合った文房具を精選し、スモールステップで継続的に取り組ませることを通して、手首や手指の動きが向上し、制作活動や作業的な活動に興味関心をもって取り組めるようにしたいと考えている。

金曜日の時間割（1時間目：日生→2時間目：自立→3時間目：生単→4時間目：自立）を、中学部での作業学習がある時間割（1時間目：日生→2時間目：自立→3時間目：作業→4時間目：作業）を想定して過ごし、トイレに行くタイミングや好きな活動（身体の動き）と苦手な活動（手指の動き）の切り替えなど一連のルーティンを習慣化していきたい。

（3）指導について（指導・支援上の留意点）

以上のことを踏まえ、本単元では次のことに留意して指導・支援を行っていく。

- ①イラストカードや写真カードなど視覚的教材で学習の見通しをもたせる。
- ②苦手な活動に取り組むことができたなら、好きな活動ができることを確認する。苦手な活動をある程度達成できた際に、好きな活動を写真カードで提示して選択させる。
- ③実態に合った文房具を選び、スモールステップで継続的に取り組む。
- ④文房具の使い方を覚えることができるように、教師が示範を行ったり、一緒に動かしたりする。
- ⑤手指を動かし、微細な動きがより多くできるように、短時間で取り組むことができる活動を4種類用意する。

3 単元の目標

- （1）教師の支援を受けながら、道具を適切に使うことができる。 （知識及び技能）
- （2）やりたい活動を選んだり、頑張ったことを伝えたりすることができる。 （思考力・判断力・表現力等）
- （3）やりたい活動を最後まで集中して取り組もうとする。 （学びに向かう力・人間性等）

4 指導計画（本時…2時間目）

時間	月日（曜日）	活動内容
1	11月10日（金）3校時	・「つくってみよう」の見通しをもつ。 ・金曜日の過ごし方を知る。
2	11月17日（金）3校時	・文房具を使って制作活動をする（選択）。 ①ビーズを貯金箱に入れる ②デスクカッターで紙を切る ③シールを貼る ④色を塗る ・好きな活動をする（選択）。 ①ボールプール ②校内散歩 ③アンパンマンを見る
3	11月24日（金）3校時	
4	12月1日（金）3校時	
5	12月8日（金）3校時	
6	12月15日（金）3校時	

5 本時の目標

- （1）文房具の使い方が分かり、教師の支援を受けながら適切に使うことができる。（知識及び技能）
（2）活動の内容や頑張ったことを、カードで選択することができる。（思考力・判断力・表現力等）
（3）活動の見通しをもって、最後まで取り組もうとする。（学びに向かう力・人間性等）

6 展開

時間	活動内容	○発問 ★指示	・指導上の留意点 ☆全体の評価
11:20	1 始めの挨拶をする。	★始めの挨拶をします。	・顔を合わせて、サインを送ってからタッチをする。
	2 本時の活動の流れを決める。	★今日の活動の順番を確かめよう。 ○好きな遊びはなんですか。	・4種類の活動カードのうち2種類を掲示し、選択する。 ・頑張った後のお楽しみとして、好きな活動を選択する。 ・対象児がやりやすい状況であるかどうかを確認しながら、場の設定をする。
11:30	3 活動をする。	★活動をはじめます。	・道具や文房具の使い方が分かるように、教師が示範する。
		★時間になりました。終わった活動カードをポストに入れましょう。	・必要に応じて、教師が支援をする。
11:45	4 好きな遊びをする。	★好きな遊びをしよう。	・ある程度慣れてきたら、教師の支援を減らしつつ、1人でできるようにする。
		★時間になりました。好きな遊びのカードをポストに入れましょう。	・できたら、称賛する。 ・集中が途切れてしまった場合は、声掛けをしたり、飲み物を飲んだりして気持ちの切り替えができるようにする。
12:00	5 振り返りをする。	★今日頑張ったことを確かめよう。	・活動カードから頑張ったことを選択する。
12:10	6 終わりの挨拶をする。	★終わりの挨拶をします。	・顔を合わせて、サインを送ってからタッチをする。

7 単元を通した児童の様子・変容

・活動カードと好きな活動カードを使ったことで、その日の活動の流れを理解することができた。また、活動の流れに見通しをもち、それぞれの活動にしっかり取り組むことができた。 ・ハサミの代用としてデスクカッターを使うというように、実態に合った文房具を使ったことで自分から正しく操作し、集中して取り組むことができた。 ・文房具を使う際、どこまで力を入れたらOKなのか、またどこまでいくといいのか分かる目安があるといいと感じた。 ・活動がどうなれば終了なのか分かる示し方があると、最後まで集中して活動できると思った。

小学部A B グループまとめ	対象児童：O・R
研究メンバー	安西直美、福田賢、土屋洋貴

1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫 ・日々生活で使用する車いすとバギーの使い分けをした。バギーから降りて運動する時間をしっかりとった。 ・児童の好きな硬貨入れやボールプールを活動の中に入れて込んでいった。 ・写真カードやイラストカードなどの視覚支援を活用し、児童が物や場所をイメージしやすくした。 ・選ぶ場面では、教師がやって見せてから選んだり、実際に飲み物を飲んでから選んだりと体験を大事にするようにした。片手をつなぎながら一つに手を伸ばすことを意識できるようにした。(頑張ったこと発表や飲み物選びなど) ・新しく取り組みたいことは毎日同じ流れで繰り返した。取り組みの状況から児童がどこまで分かっているを予想し、少しずつ手立ての方法を変えて模索した。(朝の会の日付はりを1段階から2段階にするなど) ・教師の支援のやり方の選択肢をたくさんもっておき、状況に合わせてコロコロ支援を変えていくようにした。支援の仕方も担任間ですぐに共有してクラスの中での支援の数を増やしていくことを心掛けた。(ホワイトボードへのペン書き、机の向き、車いすの配置など)



2 対象児童の学びがどのように変わったか？	
良かった点 ・2年前と比べて大好きな物や活動の終了を切り替えられることが増えてきた。 ・運動後では、教師の指示を聞いてスムーズにバギーに乗ることも見られた。 ・2～3項目から選べることも増えてきた。 ・同じ流れにより見通しをもち、落ち着いて活動することが増えた。 ・不快な気持ちを伝えながらも教師と一緒に活動することが増えてきている。 ・顔写真の移動や日付はりなどルールを知った。	課題点 ・人を見て対応を変える。(逃げる、べたべたとくっつき続ける) ・好きなボールプールや砂遊びをなかなか終えることができないときがある。 ・集中時間が短い。 ・手先を使った活動が苦手な物を投げたり押したりすることが多い。



3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点 ・活動の流れを変えず、繰り返しの学習を大事にしていく。特に朝の会の充実させていきたい。 ・女性教員の支援を大事にしながらトイレの支援やバギーへの乗り移りを行っていく。 ・活動のメリハリがはっきりするように、運動時間を十分にとる。 ・視覚的教材と好きな活動を選ぶ学習、目的をもった教材を活用していく ・本人の判断を大切に学習を行っていく。(選択、教師に乗せられるではなく自ら乗るなど) ・中学部、卒業後を考え、手先を使った活動にチャレンジし、集中時間を少しでも増やしていく。 ・教材をいろいろ試す。(場の設定や教材の向き、ディスクカッターや硬貨入れなど新たな興味関心) 実態に合った道具を使用し、少しでも手元で活動するきっかけづくりを行っていきたい。
--